

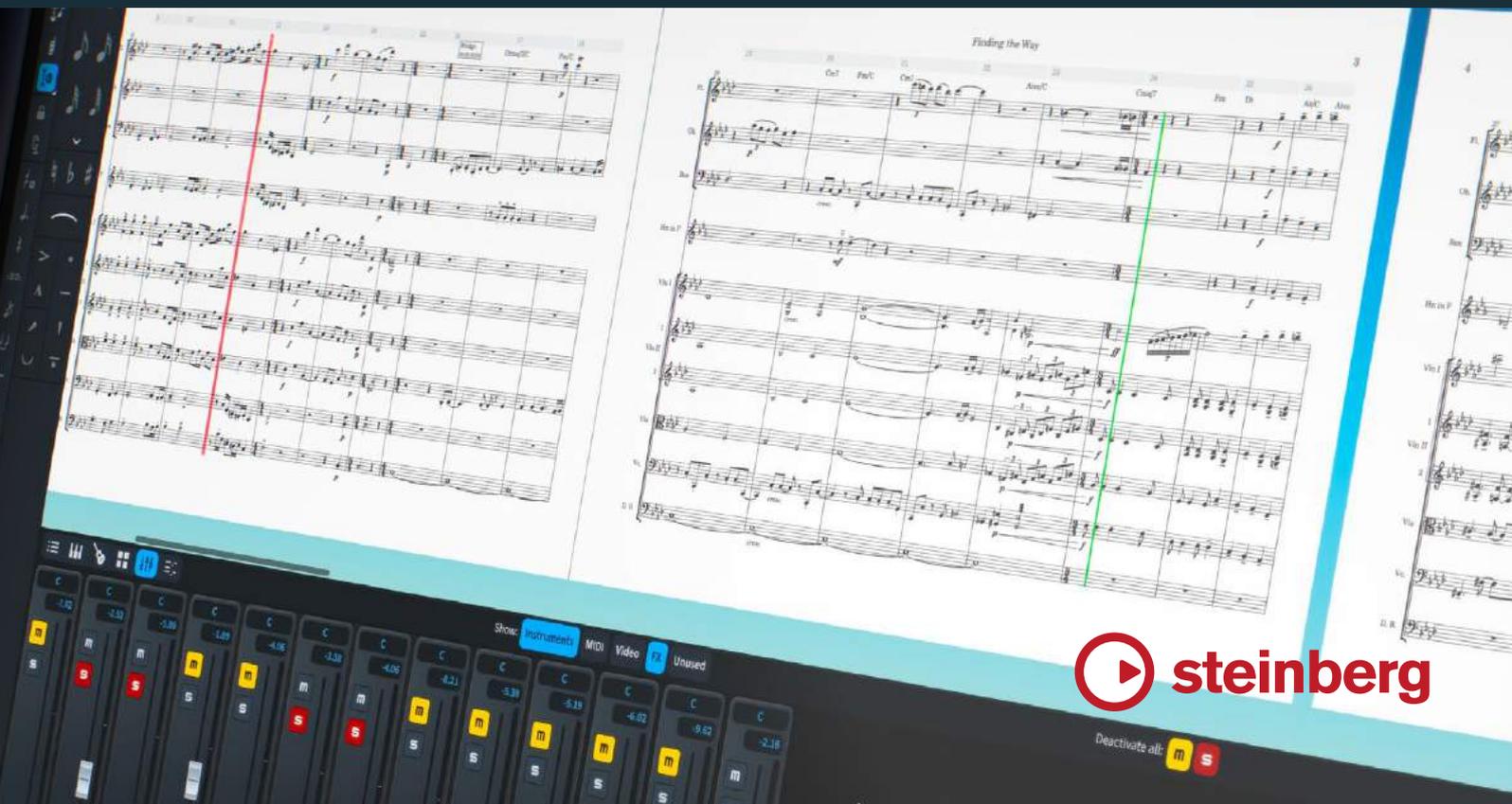


# DORICO

Advanced Music Notation System

 DORICO PRO<sub>4</sub>

 DORICO ELEMENTS<sub>4</sub>



 **steinberg**

Deactivate all:  

演奏との親和性を極限まで追求した楽譜作成ソフトウェア

# DORICO



音楽制作の主流がDAW(音楽制作ソフト)に移り変わった現代では、楽譜を使用せずに音楽が完成するケースも多くなってきました。しかし、レコーディングやライブの現場で、演奏者に演奏内容を伝える手段として楽譜の重要性は未だに変わることがありません。そんな現代の音楽制作事情に寄り添い、Doricoは常に進化を続けてきました。Cubaseをはじめ音楽制作の最前線で利用されているDAWを長年作り続けてきたSteinbergだからできる究極の楽譜作成ソフトDorico。

作編曲家、演奏家、音楽教育者、出版関係者など、様々な分野で活躍する音楽関係者にデジタル楽譜の新たな世界を提供します。



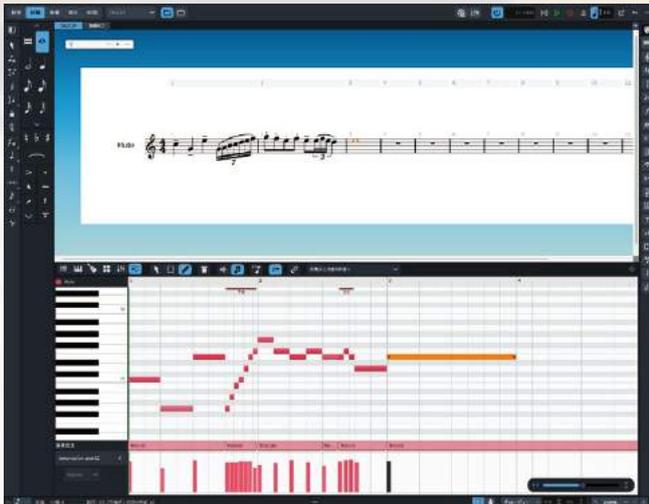
Dorico 4はDAWと同様にグラフィカルな音符入力をそのまま楽譜にするというシンプルな機能に磨きをかけました。これまで再生モードの付加機能として装備されていたキーエディターを記譜モードにも配置。これにより、譜面と実際のノートデータを見比べながら入力や編集が行えるほか、読譜に自信が無い方でも楽譜作成が可能となります。もちろん従来型のキーボード入力やマウスを使った音符入力も搭載しており、楽譜作成の入力選択肢が大幅に広がりました。さらにタッチ式ディスプレイにも対応したオンスクリーンキーボードやフレットボード、ドラムパッドを装備。MIDIキーボードが無くても簡単に演奏を入力できます。

# 楽譜作成ソフトの常識を越えた豊富な入力方法を装備

## Key Editor

### キーエディター

DAWの様にグラフィカルにノートを入力/編集できるDoricoのキーエディターがさらに進化しました。記譜モードと再生モードの画面下に、選択されているパート(入力中のパート)のキーエディターが表示され、スムーズな入力と編集が行えます。スコア表示用の音価(音の長さやタイミング)と実際の音の長さや開始位置を区別して入力することができますので、16分音符を8分音符のスタッカートで表記させたり、タイミングをずらしたギターストロークをジャストタイミングの音符で表示させることも可能です。



マウスでグラフィカルに音符を入力できます



実際に発音する音と表記用の音を音符毎に調整可能



ペロシティーの編集もDAWの様にできます

## On Screen Keyboard

### オンスクリーンキーボード

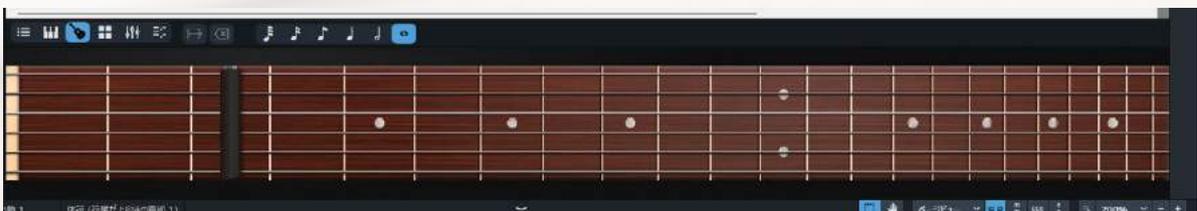
記譜モードの下部にはオンスクリーンキーボードを表示させて入力を行うことができます。これまでMIDIキーボードが無い環境ではマウスで五線上に音符を入力するか、コンピューターのキーボード(アルファベットキー)による入力しか出来ませんでした。オンスクリーンキーボードを使用すれば鍵盤上での音を確認しながら入力を行うことができます。また、Microsoft Surfaceなどのタッチディスプレイ機能付きWindowsにも対応しているので、ノートパソコンだけで鍵盤入力を行うことができます。



## Fret Board

### フレットボード

タブ譜などを表示できるフレット楽器を設定している場合には、記譜モードの下部にフレットボードを表示させることが出来ます。タブ譜入力時に必要な弦の情報をマウスクリックで入力できるのでとても便利です。また、変則チューニングやカポタストの設定にも対応しており、ギターやベースの教則本作成にも最適です。



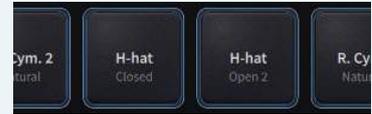
## Drum Pad

### ドラムパッド

ドラムやパーカッションなどの無音程打楽器パートにはドラムパッドを使用することができます。パッドは打楽器キットとして登録されている表記位置(五線の表示位置)と演奏技法(オープン/クローズなど)によって自動的に作成されるので、面倒なアサインは必要ありません。ハイハットのオープン/クローズなど、同じ表記位置でも譜頭や付加記号で区別される打楽器の譜面を素早く入力することができます。



無音程打楽器用のドラムパッド



同じ楽器の奏法違いをパッドで切り換え可能

## Real-time Input

### MIDIキーボードやオンスクリーンキーボードでリアルタイム入力



音符の入力方法として最もシンプルなりリアルタイム入力。入力パートを選択してトランスポートのRecordボタンを押し、メトロノームに合わせてMIDIキーボードやオンスクリーンキーボードを演奏するだけで簡単に音符を入力できます。もちろんDAWと同様にノートタイミングを修正するクオンタイズ機能や、キーエディターによる編集で美しい楽譜を簡単に作成できます。また、再生中にMIDIキーボードで演奏したフレーズを録音ボタンを押していた時と同様に復活させる"Retrospective Record"(非録音時の記録)機能も搭載。オケに合わせて何気なく弾いたメロディーを逃さず記録することが可能です。



"Retrospective Record" ボタン

## Step Input

### キーボードショートカットを駆使したステップ入力

Dorico独自のショートカットキーを活用したステップ入力もベーシックな入力方法として定評があります。記譜モードで **[Shift]+[N]** を押せば音符入力がスタンバイ状態となり、コンピューターのキーボードから **[C][D][E][F][G][A][B]** の各音程キーと数字キーによる音価の切り換え、左右矢印キーによるステップの移動で音符を入力できます。また、オンスクリーンキーボードやMIDIキーボードを併用すれば、#やbのノートも含めてダイレクトに音程を指定することも可能。フレットボードやドラムパッドでも同様のステップ入力が行えます。



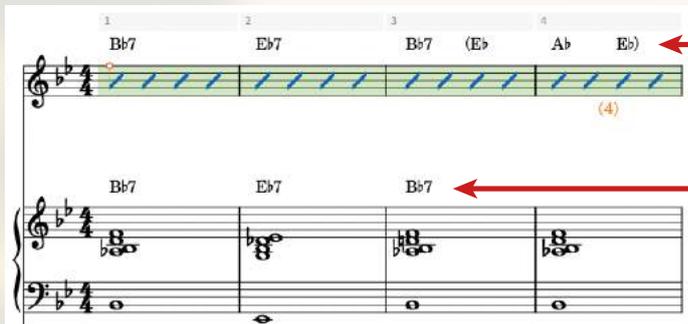
# ポピュラーミュージックに欠かせないコード表記も充実

Doricoのコード機能はとてもインテリジェントです。再生モードの chordsトラックに反映されるグローバルコードと、特定のパートのみに表記を加えることができるローカルコードの2種類を装備。リピート後に演奏して欲しい括弧付きのコード表記を作成したり、特定のプレイヤーにトライアドを演奏してもらいたい場合など、ジャズやポピュラーにおける複雑なコード表記も行えます。

もちろん Cmaj7 を C△7と表記するなど、コード表記そのもののバリエーションも豊富。数字やアルファベットの大きさやマージンにも細かく拘ることが可能です。



分数コードや Alt. 表記など、様々なコード表記が可能



C<sub>L</sub> Bb7

ローカルコードのポップアップ

特定のプレイヤー(パート)のみに設定出来るローカルコード。再生モードの Chordsトラックには反映されないコードです。

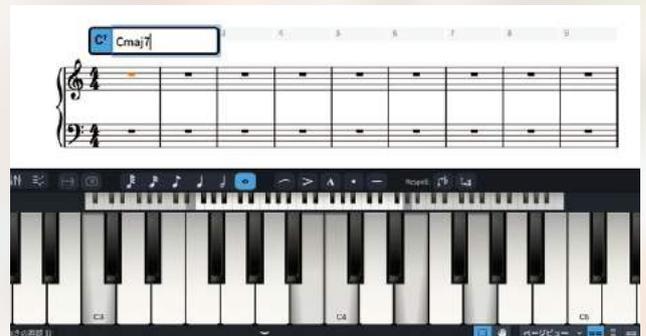
C<sup>G</sup> Bb7

グローバルコードのポップアップ

楽曲全体に設定出来るグローバルコード。再生モードの Chordsトラックに反映されるコードです。

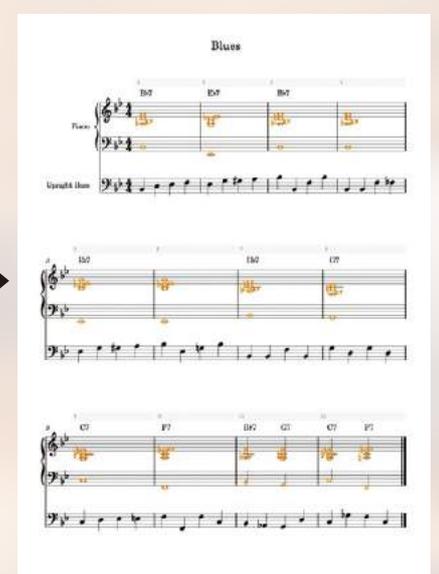
## コードネームは記譜モードで簡単に入力可能

記譜モードで **(Shift)+Q** を押せばコードネームを入力できます。コピー&ペーストも可能ですので数小節分のコード進行を一気に貼り付けることも可能です。また、MIDIキーボードを使用したコード入力にも対応、コード入力のポップオーバーを開いてMIDIキーボードからノートを送るとDoricoが推測したコードネームが表示されます。さらにパート内に入力してある音符からコードネームを作成する「Generate Chord Symbols from Slection(音符からコード記号を生成)」機能も装備。既に和音パートが入力されている楽曲であれば一瞬にしてコードネームを入力できます。



コード入力のポップオーバーを開いた状態でMIDIキーボードを演奏すると、Doricoが類推したコードネームが自動入力されます。

※ポップオーバー内でコードネームを確認してから決定したり入力後に次のステップに進めたりするなど様々な設定が可能です。

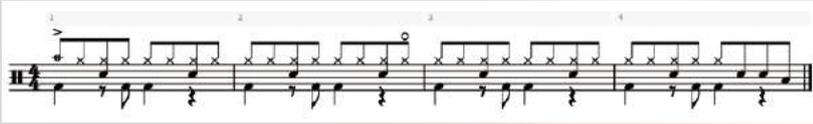


ピアノなどの和音パートやコード構成音のアルペジオパートを選択して「Generate Chord Symbols from Slection(音符からコード記号を生成)」を実行

一瞬にしてコード表記を作成することができます

# ドラム、パーカッションの設定も自由にカスタマイズ

ジャンルや国によって表記が異なるドラム譜やパーカッション譜。特に日本においては欧米諸国とドラム譜の基本的な記譜方法が異なるため、カスタマイズの自由度がとても重要です。Doricoでは簡単な設定で五線譜の好きな位置に任意の打楽器を配置できるほか、演奏技法毎の符頭の変化などをカスタマイズできます。



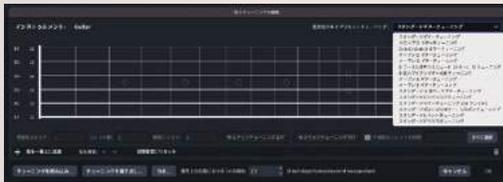
日本国内でよく使用されるドラム譜のフォーマットにも対応。MIDI ファイルからの読み込みでも自動的にハイハットのオープンマークを付加することが可能です。



ドラム、パーカッション譜の線数や表記位置を自由にカスタマイズ

# ギタータブ譜の表記にも対応

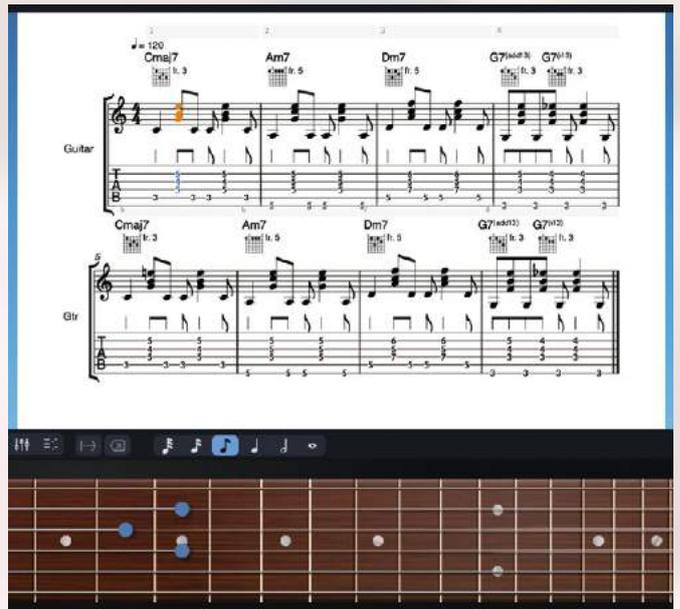
フレット楽器のプレーヤーを選択すると「弦とチューニングを編集」のメニューがアクティブになります。スタンダードな6弦ギターのチューニングをはじめ、様々な変則チューニングや10弦、20弦といった特殊な弦楽器に対応させることが可能です。チューニングなどの設定が終了したら、「レイアウトオプション」の「プレーヤー」からフレット楽器を選択し、該当するレイアウト（フルスコアまたはフレット楽器のパート譜）で「音符の譜表とタブ譜」または「タブ譜のみ」を選択すれば簡単にタブ譜が作成できます。また、同時にコードダイアグラムを表示することも可能です。レイアウトオプションを設定する際に、タブ譜あり、コードダイアグラムありと音符だけのレイアウトを3つ用意すると、必要な時だけタブ譜やコードダイアグラムを表示したりしなかったりといった切り替えが出来るのでとても便利です。



弦とチューニングを編集



カポタストの設定も可能



簡単にタブ譜を作成



レイアウトオプションを変更

# スタンダードMIDIファイルの読み込み機能を大幅に向上

DoricoのスタンダードMIDIファイル読み込み機能は、パート毎に設定をカスタマイズできるインテリジェントな読み込みを行います。1トラック目は移調楽器のサクソフォーン、2トラック目はオクターブ表記が異なるエレキギターのパート、3トラック目はヘ音記号のベースなど...読み込みを実行する前にトラック毎に設定を変更できます。さらに必要ないパートを読み込まないという選択も可能なので、必要なパートだけを楽譜にしたり、既存の譜面に別のMIDIファイルにある特定のパートを追加するといった使い方もできます。また、読み込むトラック毎に詳細な設定が行えるアドバンスドエディターが装備されているので、読み込むトラック専用のプレーヤー(Doricoにおけるパートの設定)を読み込み時に追加したり、移調して読み込ませたりするなどのカスタマイズが可能です。



## 読み込むMIDIトラックを個別に選択

MIDIトラック名の左側にあるチェックボックスを使って読み込むトラックを選択できますので、コントロールデータなどのトラックなど、不要なトラックを読み込まずに済みます。

## 読み込み形式の設定項目が豊富

MIDIチャンネル10chのデータをドラム譜にするなど、読み込み時のオプションも豊富。Doricoが自動認識してスタッカートやスラーなどもつけてくれます。また、「範囲外のキースイッチを除外」オプションを使用すれば、ノートとして読み込む範囲を設定出来ますので、実際の演奏より上や下のノートナンバーにアサインされたキースイッチ情報などをクオンタイズ設定も行えますので、MIDIファイルから素早く音符情報を引き継ぐことが可能です。

## アドバンスドエディターをクリックするとトラック毎の詳細な設定を行えます



## スラーやスタッカートなども自動認識

DoricoのMIDIファイル読み込み機能は、読み込み後の編集を最小限に抑えられるようにスラーやスタッカートなども自動認識して記譜します。また、選択したプレーヤーでは音域外となるノートに関しては符頭の色を変えて表記しますので、打ち込みから生楽器へのアレンジ変更などに役立ちます。

## 既存のDoricoプロジェクトMIDIファイルからパートを追加することも可能

ファイルメニューの読み込みメニューから「MIDI...」を選択した場合、既に開かれているDoricoプロジェクトに任意のMIDIファイルにあるパートを追加することも可能です。Doricoプロジェクトが開かれている状態から読み込みメニューでMIDIファイルをインポートすると、「MIDIインポートオプション」の画面に右上に「出力先」というメニューが追加されます。ここで読み込みを行いたいフローを選択してから読み込めば簡単にパートを追加することが出来ます。「出力先」を「新規フロー」に設定した場合は、新たな曲として(MIDIファイルのテンポや拍子で)読み込まれます。



# 限りなくDAWに近いDoricoの再生機能

Doricoには高音質なソフトウェア音源「HALion Sonic SE」に加え、豊かなオーケストラサウンドを奏でる「HALion Symphonic Orchestra<sup>®</sup>」やクワイアー音源の「Olympus Choir」、さらにkeda MUSIC社の「Indian Drum Basics」が付属。楽譜から作成した音楽をリアルなサウンドで再生することができます。もちろんサードパーティー製のVSTインストゥルメントで再生することも可能。さらにキースイッチやコントロールチェンジによる音源コントロールもエクスプレッションマップとして登録すれば、楽譜表記と演奏表現を一致させることができます。 ※Dorico Proのみ



HALion Sonic SE



Olympus Choir

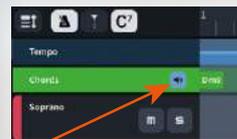


Indian Drum Basics

Doricoの再生モードには譜面上に記載したコードネームを認識するChordsトラックも装備。Chordsトラックのインストゥルメントを設定したらChordsトラックのスピーカーボタンをオン!再生ボタンを押すとChordsトラックのコードボイスをDoricoが奏でます。作曲のガイドや簡易的な伴奏にも使用できるChordsトラックを活用すれば、Doricoだけでデモ音源を作成することも可能です。



楽譜上のコードネームを自動的に認識するChordsトラック



Chordsトラックのインスペクターを開き、インストゥルメントを設定。Chordsトラックのスピーカーボタンを押すだけで、コードボイスを再生

ミキシング機能やエフェクト機能も充実。Dorico 4にはVST Amp RackやSuper Visonといったプラグインが標準装備されており、本格的なミックスダウンが可能です。Doricoに搭載されている高度な演奏技法を高音質なプラグインに演奏させることで、再現性の高いデモ音源を素速く作り出すことが可能です。



ミキサー



VST Amp Rack



SuperVisionによる各種メーターの表示

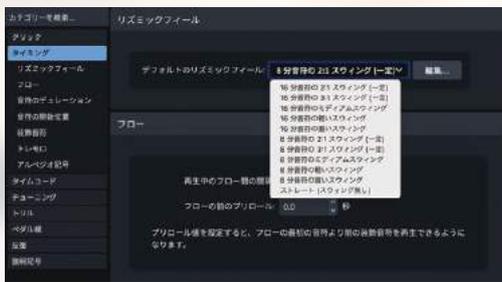
# 楽譜作成ソフトならではの再生機能

楽譜作成ソフトだからこそ重要な再生機能も充実しています。DAWでは楽曲の一部を繰り返して再生したり録音したりするリピート機能が標準装備されていますが、Doricoでは楽譜上のリピートマークやダルセーニョなどの音楽記号に従ってリピート再生する機能が装備されています。DAWでは楽曲の実時間分データを入力しなければなりません、Doricoなら1コーラス+αの入力で楽曲を組み立てられます。もちろんオーディオに書き出した時にもフルコーラスの演奏としてファイルを作成できますので、デモ音源をやバックトラックの作成にも活用できます。



リピート再生

シャッフルビートやハネモノと呼ばれるリズムにおいては、楽譜上8ビートや16ビートで記譜していても裏拍を3連符の3つ目の位置やジャストタイミングよりもややアフターで演奏する場合があります。このような音楽に対して、記譜を変更せずに再生時のリズムックフィールだけを変更する機能を搭載しています。再生オプションのリズムックフィールの中から好みの演奏表現を選択すれば、簡単に再生時の演奏を変更することができます。

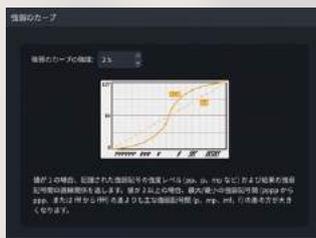


シャッフル再生

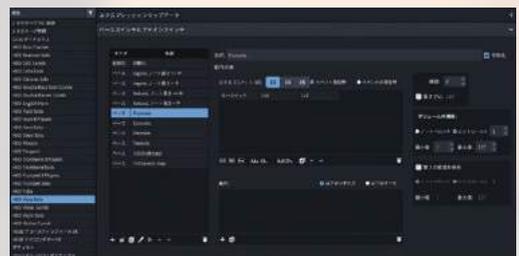
Doricoには記譜された演奏記号や強弱記号に応じてMIDIデータを変更する機能も搭載しています。これにより、スタッカートマークをつけるだけでデュレーション（音の長さ）を変更して再生したり、強弱記号に応じてペロシティーを変えるといったことが可能です。さらに付属のVSTインストゥルメントに対応したエクスプレッションマップも搭載しており、演奏記号とキースイッチを一致させてバイオリンのアルコとピチカートを切り換えるなどの奏法変化も行えます。エクスプレッションマップは追加や編集も出来るため、お使いのインストゥルメントに最適なマップを設定することも可能です。



演奏技法の再現



強弱記号



エクスプレッションマップ

映画音楽やCM制作など、動画と音楽をリンクさせて作曲を行いたい場合に便利なビデオトラック再生機能を搭載。フロー毎に動画ファイルを添付すると、Doricoの再生に合わせて動画を再生出来ます。フレームレートやオフセットの設定も可能ですので、シーン毎の動画ファイルをフローに割り当てて映像を確認しながら楽譜制作が可能です。



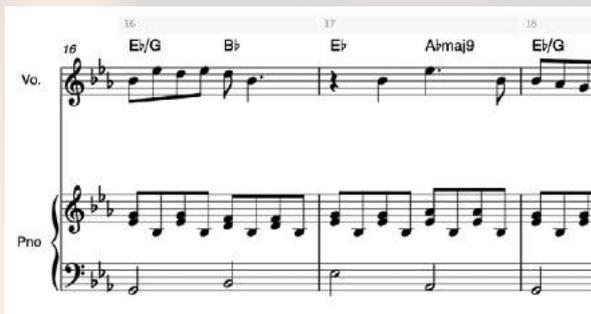
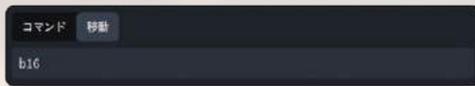
# 使いやすさを徹底的に追求した編集機能

Doricoの編集機能は記譜モード、浄書モードともユニークな機能が搭載されています。記譜モードでは、折角入力した譜面を編集中に壊さないようにするため、挿入モードで入力中に設定した位置以降の時間軸がずれないように固定する「編集停止位置を設定」という機能を搭載しました。通常時、挿入モードで8分音符を入力すればそれ以降の音符が曲の最後まで8分音符分後ろに動きますが、編集停止位置を設定すれば編集停止位置以降はずれなくなるため、曲中の任意の小節において挿入モードを安心して活用できます。



編集停止位置を設定

ショートカットキー [J] で起動するJUMP (ジャンプバー)機能は、目的の小節に素速く移動したり、様々なコマンドに簡単にアクセスするための便利な機能です。例えば移動であれば、[b]+「目的の小節番号」と入れるだけでその小節に飛ぶことができます。さらにリハーサルマークで飛びたいときには [r]+「リハーサルマークのアルファベット」といった具合に、簡単なキー操作で小節移動を実現します。また、コマンドへのアクセスではコマンドの名称を一部入力するだけでそのワードやショートカットキーなどに関連するコマンドをリストアップしてくれます。あとはタブをクリックするだけでダイアログなどを開くことが可能です。



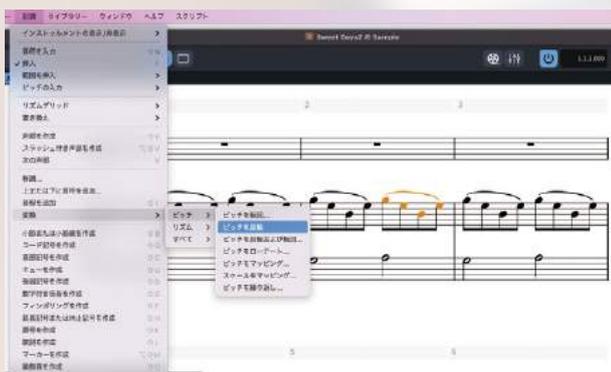
移動タブでは [b]1[6] と入力すると16小節目に飛べます



コマンドタブでは「コード」等コマンドに関連するワードやショートカットの関連アルファベットなどを入力すると、それに関連するコマンドが表示されます。

## 作曲やアレンジ時に威力を発揮する「変換」機能を搭載

上行フレーズを同じスケールの上行フレーズに入れ替えたり、リズムの順番を入れ替えたりといったノートのアレンジを瞬時に行う「変換」機能が搭載されました。共通の音使いを発展させていくことで、アレンジに幅を持たせることが可能なほか、こういった手法で作られている楽曲の採譜にとても便利な機能です。



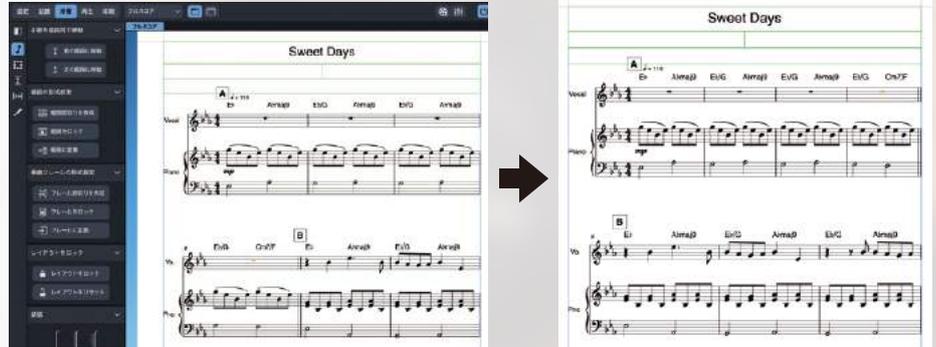
変換したいフレーズを選択して記譜メニューの変換から好みの変換スタイルを選択するだけでフレーズを変形させることができます

※上記は4つの8分音符の音並びを反転させた例

# 浄書モードで詳細なレイアウト調整が可能

Dorico ではインテリジェントなオートスペーシング機能により全くレイアウト調整を行わなくても美しい楽譜を作成することが可能です。しかし、楽譜を出版したり、特定の段を任意の小節数に変更したいなど、オートスペーシングでは対応できないレイアウトの要望が発生することも事実です。そのため Dorico Pro(※ Elements にはありません)には浄書モードというレイアウト調整専用のモードを装備しており、細かな調整を行うことができます。

例えば、右の図のように4小節目を1番上の段にまとめてセクション[A]を1段にしたい場合は、4小節目を選択して左カラム  を押したときに表示される「前の段組に移動」のボタンを押せば簡単に移動できます。また、特定の小節から新しい段組にしたい場合は、「段組区切りを作成」ボタンを押すことで区切り位置を指定することも可能です。

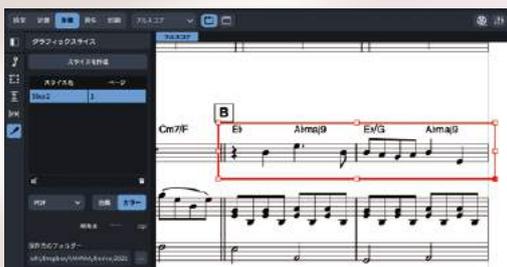


 ボタンでは段組の間隔調整などを行うことができます。動かしたい段の四角いボックスを選択し、マウスで上下するか **[Option/ALT]** + 上下矢印キーで移動できます。また、 ボタンでは音符や小節線の横位置を変更することが可能です。3連符を3つずつまとめて見えるようにしたり、小節線と音符の間隔を調整したりすることができます。調整は動かしたい音符や小節の四角いボックスを選択し **[Option/ALT]** + 左右矢印キーで移動できます。またコードやリハーサルマークなど各種記号の位置調整は  ボタンを押してから直接記号を選択してマウスで移動が可能です。また、スラーのカーブや連符の角度なども  ボタンを押して該当する部分をクリックすると編集用の四角いボックスが表示されます。



Dorico の浄書機能は教材作成にも適しています。楽譜の任意の位置に文字やグラフィックを挿入することが出来るので、音楽教室のアイコンを入れたり、演奏中の注意事項を記載したりすることが出来ます。

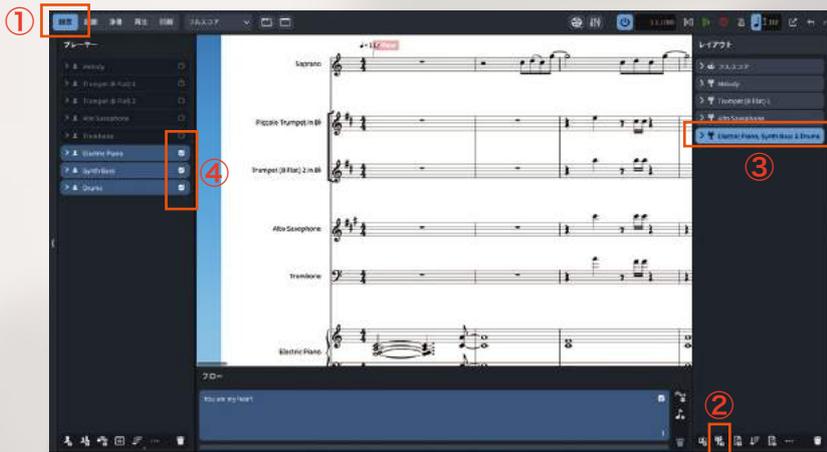
 を押して「フレームを挿入」の中から  をクリックすればテキストを、 ではグラフィックを、さらに  では任意のフローの楽譜もレイアウトできますので、「譜例 1」、「譜例 2」といった例題を配置したり、別の演奏例を記譜したりすることが可能です。



 アイコンのグラフィックスライス機能を使えば、楽譜内の任意の部分をグラフィックデータとして切り取ることが可能です。DTPソフトウェア用に譜例を作成する音楽雑誌編集者やWEB音楽セミナーなどのページに譜例を載せる際に非常に便利な機能です。PDF、PNG、SVG、TIFF の各ファイル形式に対応しています。

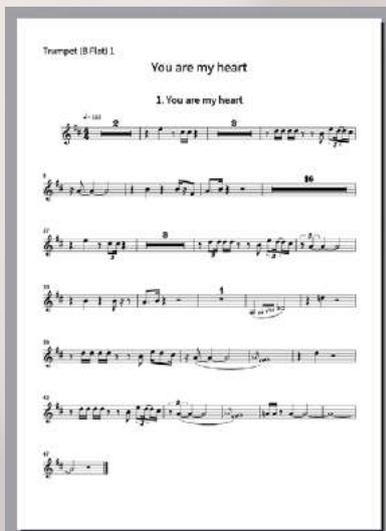
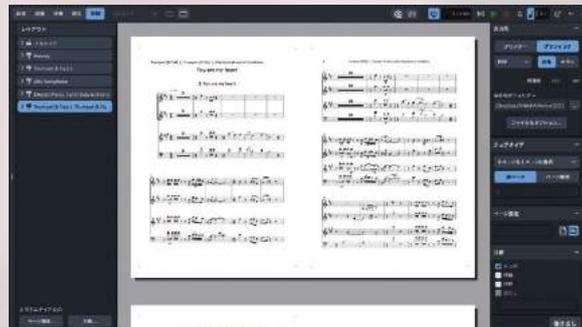
# 印刷モードでは様々なパブリッシングが可能

印刷モードではフルスコア、パート譜、複数パート譜といった様々な譜面を素速く作成する機能が整っています。プロジェクトを作成した段階では、設定モードの右側に表示されるレイアウトカラムにフルスコアのみが表示されていますが、下部のレイアウト追加ボタンで簡単にレイアウトを追加できます。例えば「パートレイアウトを追加」を押せばレイアウトカラムに新しいレイアウトが追加され、右カラムのプレーヤーから任意のプレーヤーをチェックすれば、そのパートのパート譜を作成できます。パートを複数チェックすれば複数パートのパート譜を作れますので、ホーンセクションのみの楽譜やストリングスセクションのみの楽譜といった便利な使い方も可能です。もちろんフルスコアを複数レイアウトすることも可能ですので、出力用紙違いのレイアウトを作成したり、音符の大きさを変更したり、タブ譜入りとタブ譜無しの譜面を2種類用意するといった使い方もできます。Dorico Proなら浄書モードでさらに細かい編集も出来ますので、特定のパートのみコメントを記載したり、改段の位置を細かく調整したりといった編集を行えば、レイアウトに拘った楽譜を出力することも可能です。



- ① 設定モードで両側のカラムを表示させる
- ② パートレイアウトの追加ボタンを押す
- ③ 新しいパートが追加される
- ④ パート譜に含めたいプレーヤーをチェックする

印刷モードの左カラムで印刷したいレイアウトを選択し、右カラムの印刷設定を使用して各種設定を行ったら印刷ボタンを押すだけで楽譜をプリントアウトできます。また、複数パートのパート譜も簡単に作成可能。出力先をグラフィックに変更すればPDFを始め各種ファイルに出力することもできます。また、印刷用のトンボ表示や枠線の表示など、出力時のオプションも装備しています。



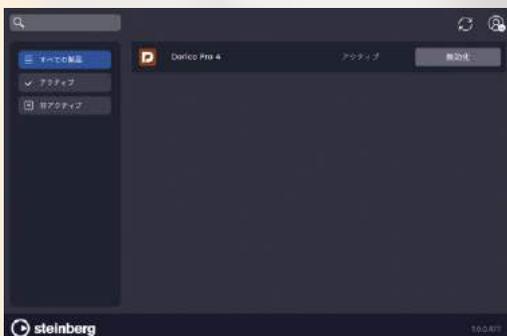
パート譜では休符小節が続く場合に自動的に長休符表示になりますので、パート譜毎にレイアウト調整を行う手間が省けます。また、レイアウトオプションを使用すれば、五線サイズやページ番号の設定、括弧の形や拍子記号の表示形式などを変更することもできます。もちろんこれらの設定は作成したレイアウト毎に行えますので、全く同じ編成のフルスコアに対して数種類の印刷パターンを使い分けるといった使い方にも対応しています。また、レイアウトオプションのページ設定からページサイズをカスタムにして指定すれば、特殊なサイズのグラフィックファイルを書き出すなど、様々な用途に対応した活用が行えます。



## その他の特長

### Appleシリコンにネイティブ対応

Dorico 4はAppleシリコン搭載Macにネイティブ対応しています。これにより、Intelプロセッサを搭載したMac上に比べ、編集作業によってはおよそ2倍の速度で動作します。複雑なグラフィック処理を必要とする楽譜作成ソフトウェアを、より快適かつスピーディーに操作することが可能です。



### 新しいアクティベーション

Dorico 4は今までのスタインバーグキーによるアクティベーション方式から「Steinberg Activation Manager (通称SAM)」によるアクティベーションに変わりました。Steinberg IDに紐付いたライセンスを使用するPCにインストールしたSAMで認証させることでUSB dongle無しで起動することができるため、外出先でスタインバーグキーを忘れた...といったトラブルからも解放されます。また、一つのシングルユーザーライセンスで最大3台のコンピューターで利用できるので、デスクトップ用、モバイル用と分けて準備しておくことも可能です。

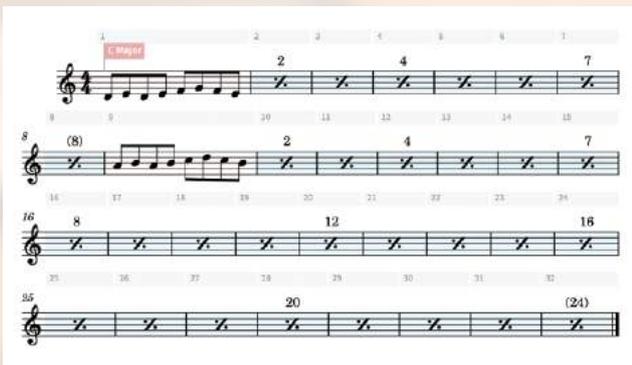
### ライブラリーマネージャー ※Dorico Proのみ

Dorico Proにはライブラリーマネージャーを搭載。現在のプロジェクトがデフォルトからどの程度レイアウトなどのオプションを変更したかがすぐに把握することが可能です。また、他のDoricoプロジェクトを読み込んで比較する機能も装備。綺麗にレイアウトすることが出来た過去のプロジェクトを参考にして設定を行うことができます。



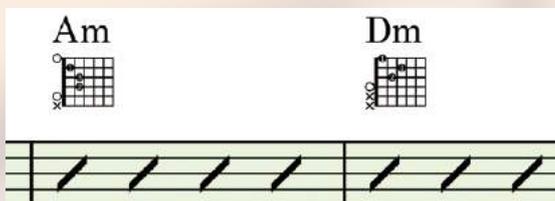
### リピート小節のカウント表示を強化

リピート小節を設定した際の小節数カウント表示設定を強化しました。表示無しを含め、括弧付き、括弧無しを途中小節およびリピート最終小節の2種類で使い分けられるので、演奏者に親切な省略楽譜を提供することができます。



### コードダイアグラムにフィンガリングを表示

コードダイアグラムにフィンガリングを表示させることができました。これによりギター教材の作成精度が格段に向上します。また、Dorico Proでは日本で標準的に使用されているコードダイアグラムの水平表示も選択できます。



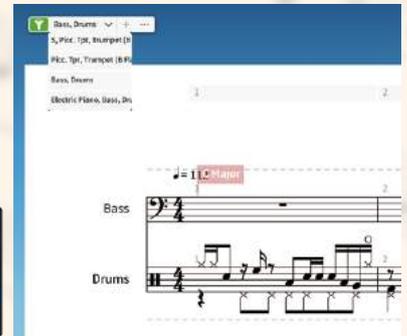
# DORICO for iPad もバージョン2へ

画面タッチによる直感的なユーザーインターフェースが魅力のiPad版 Doricoもバージョン2としてさらに進化しました。Dorico 4で追加されたフレット楽器のカポタスト対応や挿入モード時の挿入停止位置の指定など、iPad版のみでも高度な入力、編集作業が行えます。また、iPad版には読譜モードと呼ばれる楽譜表示専用のモードも搭載しており、ライブパフォーマンスでのデジタルスコアとして活用できます。暗いステージでも楽譜用ライト無しで使用できる楽譜として、iPad版 Doricoは最適なデジタルスコアソリューションです。

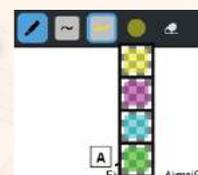
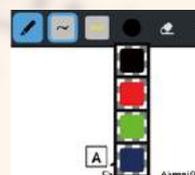


iPad版 Doricoは、デスクトップ版のDoricoプロジェクトをそのまま開くことが可能です。iCloudやDropBoxなどの共有サーバーを介してファイルをやりとりすれば、自宅で作成した楽譜ファイルを外出先で開けます。この際、元のDoricoプロジェクトファイルを自動的にコピーしてiPad内に保存するので、オリジナルを壊すことなく編集が可能です。

デスクトップ版にも搭載されているギャラリービュー(譜面をページで表示せずに横方向1列に表示する形式)時のインストゥルメントフィルター機能は、表示範囲の限られているiPad版でこそ威力を発揮します。リズム隊のみ、ホーンセクションのみなど、好みのフィルターをあらかじめ用意しておけば、記譜モードのフィルタープルダウンから選択するだけで必要な部分のみの表示に切り替えることが可能です。また、Dorico 4から搭載されたJump(ジャンプバー)機能にも対応しました。iPadにApple Magic KeyboardなどのBluetoothキーボードを接続すれば、キーボードの「J」キーを押して呼び出すことができます。コマンドの一部を文字入力すれば、該当するコマンドをリストアップできますので、膨大なDoricoのコマンドに素早くアクセスすることが可能です。さらに、iPadの魅力とも言える画面タッチを最大限に活用するため、記譜モードの下部に表示されるキーエディターにコントロールチェンジエディターを追加しました。これにより、滑らかなコントロールチェンジ曲線を指やApple Pencilを使って書き込むことができます。もちろんBluetooth MIDIデバイスにも対応していますので、Bluetooth MIDIキーボードを使用した楽譜入力も行えます。



Apple Pencilを使用すれば、読譜モード時に手書きでコメントやマーカーを入力できるようになりました。画面右上のメニューをプルダウンして読譜モードを選択したら、上部にあるペンシルアイコンをクリックするだけです。文字入力などに便利な4色のフリーハンドツールと、半透明のマーカー(こちらも4色)を引くことができるマーカーツールがあり、読譜時の注意事項などを書き込むことが可能です。音楽教室で生徒さんが持参したiPadにDoricoプロジェクトで教材を共有すれば、レッスン時の注意事項を書き込むメモとして活用することも可能です。



# Dorico 比較表

	DORICO PRO	DORICO ELEMENTS	DORICO SE	DORICO for iPad
<b>記譜</b>				
プロジェクト上のプレーヤー数	無制限	24	2	2 / 4 (登録後) / unlimited (サブスクリプション)
搭載テンプレート	40	37	6	7 / 23 (登録後) / 31 (サブスクリプション)
臨時記号	標準 / ダブル / 強分音 / カスタム	標準 / ダブル	標準 / ダブル	標準 / ダブル
小節番号	複数フォーマット	一種類	一種類	一種類
小節反復記号	○	○	○	○
小節線の種類	豊富に対応	縦線 / 縦線 / 終止線 / 繰り返し線	縦線 / 縦線 / 終止線 / 繰り返し線	縦線 / 縦線 / 終止線 / 繰り返し線
音部記号	26 プリセット	7 プリセット	7 プリセット	7 プリセット
音符 / 休符のカスタムグループリング	○			
括弧のカスタマイズ	○			
コードダイアグラム	フル	限定	限定	限定
コード記号	9 プリセット、カスタマイズ可能	9 プリセット	1 プリセット	1 プリセット
括弧付きコード記号	○	○		○
コンデンシング	○			
キュー	○			
ストリングスの Divisi	○			
ドラム譜	○	○	○	○
強弱記号	○	○	○	○
扇状通術 / ステムレット	○			
遠奏低音	○	○	○	○
ギタータブ	フル	限定	限定	限定
フレット楽器のカバリスト対応	○	○	○	○
ハーペディング	フル	限定	限定	限定
調号	フルカスタマイズ可能	最大 7 フラット / シャープ	最大 7 フラット / シャープ	最大 7 フラット / シャープ
テヌート / フェルマータ等	○	○	○	○
ライン	フルカスタマイズ可能	40 プリセット	40 プリセット	40 プリセット
歌詞	○	○	○	○
符頭	30 プリセット、フルカスタマイズ可能	30 プリセット	30 プリセット	30 プリセット
オクターブ線	フルカスタマイズ可能	限定	限定	限定
装飾音符	○	○	○	○
Ossia	○			
楽譜毎に譜表の追加 / 削除	○			
ページ番号	カスタマイズ可能	自動	自動	自動
ペダル記号	フルカスタマイズ可能	限定	限定	限定
演奏技法	フルカスタマイズ可能	220 プリセット	220 プリセット	220 プリセット
リハーサルマーク	カスタマイズ可能	限定対応	限定対応	限定対応
反復記号	○	○	○	○
リズムスラッシュ	○	○	○	○
シングル / マルチトレモロ	○	○	○	○
テンポ記号	○	○	○	○
無音種打楽器譜	カスタマイズ可能	限定対応	限定対応	限定対応
<b>再生</b>				
内蔵音色	2000以上 (8GB ライブラリー)	1500 (2.5GB ライブラリー)	1500 (2GB ライブラリー)	200
エフェクト	32	32	32	1 (Reverb)
SuperVision	○	○	○	
General MIDI 対応	○	○	○	○
HALion Sonic SE	○	○	○	
HALion Symphonic Orchestra	○	○	○	
Soundiron Olympus Choir Micro	○	○	○	
Keda Indian drum sounds	○	○	○	
VST エクスプレッションマップ	○	○	○	○
サードパーティ VST 対応	○	○	○	
記譜の解釈	カスタマイズ可能	固定	固定	固定
スウィング再生	カスタマイズ可能	固定	固定	固定
反復記号の再生	○	○	○	○
強弱記号の再生	○	○	○	○
テンポチェンジの再生	○	○	○	○
オートメーションデータの編集	○	○	○	○
<b>浄書</b>				
ページ / 組段切り替えの追加	○	○	○	○
浄書モード	○	限定		限定 (サブスクリプション)
縦間隔の編集	○			
リズムミッド間隔の編集	○	○		
個々の要素をグラフィカルに調整	○			
カスタマイズ可能な浄書設定	○			
通術 / 声部の初期設定	○			
テキストフォント選択	フルカスタマイズ可能	限定	限定	限定
音楽フォント選択	○	○	○	○
自動衝突回避	○	○	○	○
複数の譜表サイズを混合	○	○	○	○
音符間隔の設定	フルカスタマイズ可能	限定	限定	限定
譜表、組段の間隔	フルカスタマイズ可能	自動	自動	自動
<b>カスタマイズ</b>				
ページ / 組段の大きさ	○	○	○	○
ページレイアウト	○			
音符間隔	フル調整可能	限定	限定	限定
調号	○			
臨時記号	○			
奏法	○			
符頭	○			
テキストフォント	フルカスタマイズ可能	限定	限定	限定
音楽フォント	○	○	○	○
コード記号	○			
記譜オプション	フルカスタマイズ可能	固定	固定	With subscription
浄書オプション	フルカスタマイズ可能	固定	固定	固定
再生オプション	フルカスタマイズ可能	固定	固定	固定
ライブラリーマネージャー	○			
<b>記譜と編集</b>				
挿入モード	○	○	○	○
マルチペースト	○	○	○	○
分数 / 集約	○			限定 (サブスクリプション)
声部への貼り付け	○			
フィルタリング	フル	限定	限定	限定
キーエディター	○	○	○	○
スクリーンキーボード	○	○	○	○
フレットボード	○	○	○	○
ドラムパッド	○	○	○	○
非移音時の記録	○	○	○	○
音符からコード記号を生成	○	○	○	○ (サブスクリプション)
変換 (メロディーやリズムの変形)	○	○	○	○
ギャラリービューでのインストールメントフィルター	○	○	○	○
ジャンプバー	○	○	○	○
<b>読み込みと書き出し</b>				
MusicXML 読み込み	○	○	○	○
MusicXML 書き出し	○	○	○	○
オーディオ書き出し (WAV / MP3)	○	○	○	○
画像書き出し	○	○	○	○
MIDI 読み込み	○	○	○	○
MIDI 書き出し	○	○	○	○
MIDI ファイル読み込み時のオプション	○	○	○	○
<b>印刷</b>				
複数コピーの印刷	○	○	○	○
冊子 / 見開き / 2 ページを集約	○	○	○	○

## Dorico 動作環境

	DORICO PRO	DORICO ELEMENTS	DORICO SE	DORICO for iPad
OS (Windows 64-bit)	64-bit Windows 10 Version 21H2 以上, 64-bit Windows 11 Version 21H2 以上			-
OS (Mac)	macOS Mojave, macOS Catalina, macOS Big Sur, macOS Monterey			-
Apple silicon-based Mac	Universal App			-
CPU (必須) (Windows)	64ビット Intel / AMD マルチコアプロセッサ			-
CPU (必須) (Mac)	"Intel Core" i5 (mid 2013 以降) または Apple silicon			-
CPU cores	4以上			-
RAM (必須)	4 GB			-
RAM (右記以上推奨)	8 GB			-
ディスク空き容量	12 GB		6 GB	-
グラフィック minimum (Windows)	Windows 10 標準グラフィック			-
グラフィック (右記以上推奨) (Windows)	AMD R または RX シリーズ以上または NVIDIA Series 700 以上			-
グラフィック (Mac)	Metal 対応グラフィックカード			-
Graphics (GPU memory)	4 GB 以上 (4K ディスプレイ)			-
OS 対応オーディオデバイス	○			-
ASIO 対応オーディオデバイス推奨	○			-
インターネット環境	ユーザー登録等, ライセンスアクティベーション, インストーラーのダウンロード			-

### MySteinberg について

Dorico をご使用になる際は、必ず MySteinberg アカウント (Steinberg ID) が必要となります。お持ちでない場合は Steinberg ID のログイン画面から「アカウントを作成」をクリックし、新規 Steinberg ID を取得して下さい。Steinberg ID の作成は無料で行えます。



アクティベーションマネージャーを使用した Steinberg 製品は、この Steinberg ID に登録した製品の購入情報で管理されます。ご登録の Steinberg ID からログアウトしてしまうと、Dorico を起動できなくなりますのでご注意ください。

### 日本国内でのスタインバーグ製品のサポートについて

株式会社ヤマハミュージックジャパンが販売したスタインバーグ製品のサポートは、スタインバーグ・コンピューターミュージック・インフォメーションセンターにて行います。詳細につきましては下記サイトをご参照ください。

[https://jp.yamaha.com/support/contacts/av\\_pa/steinberg\\_notes/steinberg/index.html](https://jp.yamaha.com/support/contacts/av_pa/steinberg_notes/steinberg/index.html)

なお、お電話でのサポートは受け付けておりませんのであらかじめご了承ください。

ヤマハミュージックジャパンでのお問い合わせ対応やバージョンアップ 販売などのサービスは、ヤマハが輸入・販売した製品に同梱のライセンスコードでユーザー登録された方に限ります。なお、日本国内から Steinberg Online Shop へアクセスして購入された製品もサポート対象です。ただし、Steinberg Online Shop にてバージョンアップ版を購入された場合、その元となる製品がヤマハが輸入・販売した製品である必要がございます。製品をお求めになる際やお問い合わせの際は、ご注意ください。よろしくお願いいたします。

\* 機能限定・簡易サポート対象バンドル専用ソフトウェアについては、ソフトウェアのインストール、アクティベーション、バンドルされているハードウェアとの初期設定など、ご購入から使い始めまでの簡易サポートのみ行っております。あらかじめご了承ください。

\* 記載の製品名、会社名及びロゴ等は各社の商標もしくは登録商標です。\* 使用前に付属のマニュアルをよくお読みの上、ご使用ください。

\* 掲載製品の最新 OS への対応状況や動作環境、各種アップデートなどは、<http://japan.steinberg.net/>にてご確認ください。

\* 仕様/デザイン/価格等は予告なく変更することがあります。